

2024 年度:こども園自己評価の報告書 とねやまこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	「豊中市幼保連携型認定こども園全体計画」のめざす、こども像「人とつながり生きる力の基礎を培う」を目標とし、年間・月間指導計画を5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識して計画してきた。 今年度から乳児クラスが増えたため、講師を招いて乳児保育の発達の道筋の確認と子どもの主体性を育む環境のあり方を学び、1年間の見通しを持てた。子どもの安心感、大人との信頼関係づくりが保育の根底にあることを確認し、まず子どもの思いに共感するチャンスを逃さないようにすることを共有できた。子どもたちの興味関心に沿って環境を整えることで遊びの自主性を育む取り組みにつながった。
健康支援	・保健指導年間計画に基づき、保健指導や保健管理を進めてきた。担任と連携して子どもの姿から自分の体に興味を持ち自分や友達の身体を大切にする気持ちを持てるよう努めた。給食後の歯磨き指導は年齢に合わせて5歳児から2歳児まで行った。 ・自園調理の給食が始まり、メニュー、離乳食やアレルギー食について委託業者との話し合いを綿密に行い、全職員とアレルギー対応マニュアルの確認の徹底を行った。持病のある子どもに対してのマニュアル作成、嘔吐処理のシミュレーションも行い職員の意識の向上につながった。
安全指導・危機管理	・新園舎となり、使用上の不具合や毎月の安全点検で施設内の破損や不具合を確認し、速やかに修繕依頼を行い改善してきた。 ・避難訓練についても園庭がない時期と園庭が使えるようになってからでは避難経路が変わるため、その都度職員間で子どもたちが安全に避難できるよう検討した。消防訓練や交通安全指導では消防士や警察官の話を聞き、子どもたちにとって良い経験になった。
食育の推進	・自園調理の給食が始まり、様々な食材に触れることができるようになった。苦手な食べ物も友達と食べることで少しずつ克服できたり、好きな食べ物をおかわりしたり、食事に興味関心を持つ子どもが増えた。刀根山高校の畑をお借りしてじゃがいも、さつまいも、人参、玉ねぎを栽培し菜園活動を行った。カレーパーティや大根パーティなど子どもたちが収穫し洗ったり包丁で切ったりする経験をし、食への関心が高まった。
子育て支援（在園児および地域）	・大人も子どもももっと知り合い、関わりを広げつながっていけたらと、「みんなで知り合おう！かかわろう！つながろう！」をスローガンに掲げ行事やクラス懇談会、個人懇談の中で、保護者と職員・保護者と子どもたち・保護者同士が共に子どもの成長を喜び合えるような取り組みを検討し行った。 ・地域支援事業で各クラスと交流し、地域の親子に各年齢の育ちを実感していただく機会になった。支援センターに遊びに来る親子も少しずつ増えてきた。

インクルーシブ教育保育	・外国にルーツをもつ児童が増えており、それぞれの文化を知り保護者子ども共に安心して過ごせる環境を整えた。 ・箕面支援学校の巡回指導を受けた。子ども一人ひとりの育ちに沿った支援の方法を学び、共に育つことを大切にしたクラス運営を行った。 ・ミーティングを行い子ども理解、支援の方法や保育教諭の役割について悩みを共有し考える機会を持った。
職員の資質の向上 ＊園評価 ＊自己評価 ＊ガイドラインなど	・不適切保育についてビデオ鑑賞後グループ討議を行い、普段の保育の中での対応や言葉かけの見直しを行った。年度当初と今年一年を振り返って再度不適切保育について考えた。意識して取り組んでいるが自分の関わりが不適切保育になっているのではとの悩みも共有でき、子どもの立場になって教育保育することの大切さを確認できた。 ・部落差別について、「寝た子はネットで起こされる」の本から差別意識についてグループで話し合い、職員の部落差別に対しての意識向上の機会となった。
幼保こ小中の連携・接続 ＊園同士のつながりも含む	・今年度プールの使用ができなかったため、ともだち、原田こども園のプールに行き、交流することができた。 ・刀根山小学校の体育館で運動会を行ったところ、1年生がこども園の練習を見学に来て、その後励ましの手紙をもらった。小学校の運動会の練習を見学（4，5歳児）。また、5歳児は刀根山・螢池小学校へ学校見学に出かけ、学校内の雰囲気を感じ、1年生と一緒に折り紙やカレンダー作りをし、楽しい時間を持つことで入学への不安を和らげることができた。
評議員会	・評議員の特別養護老人ホーム美豊苑との交流の機会を持つことができた。入園式、運動会、発表会も評議員に見学に来ていただき、一人一人の子どもの自主性を育て、共に育つことを大切にした教育保育について高い評価をいただいた。
その他	・保護者会「とねっこおひさま会」より「とねっこおひさま祭り」やバルーンアートなどの楽しい企画をしていただき園運営にご尽力いただいた。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育内容の発信と保護者との共有	クラスの活動や遊びの中で今何を育てるのか、どんな力をつけていくのかを明確に保護者に伝え共有していく。特に同年齢の友達だけでなく異年齢との関わりの重要性を伝え、人との関わりの中で育つことについて、ドキュメンテーションを使いながら共有する。
職員の資質向上	乳児クラスが増えたことで職員数も増えねらいや目的は同じでも活動や行事の持ち方などの違いが見えた一年であった。話し合いを重ね、とねやまこども園の現状にあった取り組みを行ってきたが、次年度はより職員間の横のつながりを密にしながら意識の共有を高めていく。

令和7年（2025年）3月31日
 豊中市立 とねやまこども園

園長名 百田 寿美子